

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。またその作風も、初期から晩年に至るまで、印象派やシュルレアリスム（超現実主義）風、抽象的な作品など、多彩に変化しました。

20代でフォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、一躍美術界で脚光を浴びた瑛九は、様々な技法や表現を模索した後に、その集大成ともいえる点描による絵画空間へとたどり着きました。

今回の展示では、油彩や版画など、各領域の代表的な作品に加え、瑛九と交流のあった鬚嘸や池田満寿夫などの作品を特集して紹介します。没後60年近くを経て、今なお輝き続ける瑛九作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	細江 英公	1933～	瑛九の肖像(浦和の自宅庭)	1952(昭和27)	22.2×17.4	写真
2	細江 英公	1933～	昼寝する瑛九(浦和の自宅庭)	1952(昭和27)	18.9×19.1	写真
3	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	26.9×21.9	フォト・デッサン
4	瑛九	1911～1960	散歩	1951(昭和26)	53.0×40.5	フォト・デッサン
5	瑛九	1911～1960	火の見の上で	1954(昭和29)	40.2×27.6	フォト・デッサン
6	瑛九	1911～1960	静物	1935(昭和10)	45.6×38.3	油彩
7	瑛九	1911～1960	蝶と女	1950(昭和25)	80.7×65.5	油彩
8	瑛九	1911～1960	眼が回る	1955(昭和30)	53.5×65.1	油彩
9	瑛九	1911～1960	青の動き	1956(昭和31)	53.0×41.2	油彩
10	瑛九	1911～1960	街の灯	1957(昭和32)	53.3×65.5	油彩
11	瑛九	1911～1960	空の目	1957(昭和32)	72.7×60.9	油彩
12	瑛九	1911～1960	丸のあそび	1958(昭和33)	155.7×91.5	油彩
13	瑛九	1911～1960	飛びちる花びら	1958(昭和33)	80.3×116.3	油彩
14	瑛九	1911～1960	まつり	1958(昭和33)	90.8×106.4	油彩
15	瑛九	1911～1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
16	瑛九	1911～1960	五月のスフィンクス	1954(昭和29)	17.8×11.8	エッチング
17	加藤 正	1926～2016	岩石は笑った	1954(昭和29)	11.9×12.0	エッチング
18	泉 茂	1922～1995	睡魔	1954(昭和29)	16.9×14.3	エッチング
19	瑛九	1911～1960	花	1952(昭和27)	9.9×8.7	エッチング
20	瑛九	1911～1960	海と少年	1956(昭和31)	34.8×23.7	リトグラフ
21	瑛九	1911～1960	庭園	1953(昭和28)	23.4×18.0	エッチング
22	加藤 正	1926～2016	回帰する風景	1957(昭和32)	11.1×10.1	エッチング
23	加藤 正	1926～2016	落ちた星座	1956(昭和31)	40.8×26.3	リトグラフ

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
24	泉 茂	1922～1995	ゲームの瞳	1955(昭和30)	11.0×21.0	エッチング, アクワティント
25	泉 茂	1922～1995	ハルの囁	1957(昭和32)	43.9×33.1	リトグラフ
26	巖嘔	1931～	五つのフォルム	1958(昭和33)	23.7×14.9	リトグラフ
27	巖嘔	1931～	サド侯爵	1957(昭和32)	40.6×28.5	リトグラフ
28	池田 満寿夫	1934～1997	作品	1953(昭和28)	3.8×4.1	エッチング
29	巖嘔	1931～	悲劇よりもより悲痛なるもの静寂 B	1953(昭和28)	91.5×72.3	油彩
30	泉 茂	1922～1995	作品(蝶)	1959(昭和34)	33.3×45.3	油彩
31	池田 満寿夫	1934～1997	SALOME	1953(昭和28)	7.3×7.0×1.2(本)	エッチング